

【自然環境】

鹿児島県のトカラ列島に属する。

御岳という活火山の活動が活発であり、火口付近は立ち入り禁止となっている。

マルバサツキ、ヤシャブシ群落、リュウキュウチク、トカラヤギ等が有名。



【社会的背景】

人口は約50人。

小中学生が約10人。

生産年齢人口は約30人（30代以降の人が多い）。

産業は、農畜、漁業、観光業（宿泊施設）が中心。

御の文化10年（1813年）の大噴火により、島の東西にあった50あまりの人家は消滅し、全島民は避難のために、隣の悪石島や中之島に移住した。その後、70年間無人島となったが、明治になり、奄美大島出身の「藤井富伝」らが入植し、開拓が始まった。

【住民の生活】

離島という物資の限られた環境で生活していることもあり、非常に物を大事に使っていることが感じられた。

職業としての漁業や、釣りを趣味にしている方も多く、宿のご主人の釣った魚を頂くことができた。



【医療供給体制】

定期的な巡回診療があるためか、患者の口腔内の状態は良好な人が多い印象を受けた。

口腔ケアへの意識も高く、殆どの方が歯間ブラシ、デンタルフロスを使用していた。

小学生では、歯列の狭窄や、上顎前突もみられた。矯正治療を行うためには定期的に本島に通う必要があるため、治療を行うのは困難な様子だった。殆どの子供が高校からは本土に行くため、その時期に矯正治療を行うと思われる。

【実習概要】

日付	内容
10/17	・義歯調整（50代男性） 部分床義歯の適合が悪かったため、フィットチェッカーを使って義歯調整。
10/17	・知覚過敏処置（30代女性） ナノシール塗布。
10/17	・主訴：歯並びが気になる（叢生）（10代男性） 問診、口腔内診査を行った。
10/17	・口腔内診査（7歳男児） 診査、フッ素塗布を行った。

【振り返り記録】

訪問診療を行う先生方は、何度か島を訪れており、患者さんとも顔見知りになっていて、コミュニケーションを円滑に楽しそうにしていた。

初めて診療に来た先生も、前回訪問している先生からどのような状態かを聞くことができている、患者の引き継ぎもスムーズだった。

義歯制作などの数回にわたって診療が必要な治療は、体制充実事業といって、4週くらにわたって週に1回先生方が代わる代わる訪問することで行っている。

今回は天候の影響もあり、2泊3日の滞在、診療期間は1日と短い離島実習となったが、普段とは違う環境、限られた人員と物資の中で先生方がどのように治療を行っているのか見学することができて勉強になった。